

Concert Series
珠玉のリサイタル&室内楽



©Ayumi Kakamu

徳永二男、堤剛、練木繁夫による 珠玉のピアノトリオ・コンサート Vol.11

日本のクラシック界を長年牽引し続ける、徳永二男、堤剛、練木繁夫による珠玉のピアノトリオの人気シリーズ。第11弾は、ショスタコーヴィチが親友の追悼のために作曲した「第2番」を中心に、ハイドンのピアノ三重奏の中でも最も有名な「第39番」(ジプシー・トリオ)、旋律が美しいドヴォルザークの「第4番」(ドゥムキー)と、情感豊かな名曲を取り上げます。響き豊かなヤマハホールで、巨匠たちの至高な音色をお楽しみください。

徳永二男(バイオリン)、堤剛(チェロ)、練木繁夫(ピアノ)

F.ハイドン/ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調「ジプシー・トリオ」Op.73-2 Hob.XV-25

A.ドヴォルザーク/ピアノ三重奏曲 第4番 ホ短調「ドゥムキー」Op.90 B.166

D.ショスタコーヴィチ/ピアノ三重奏曲 第2番 ホ短調 Op.67

2026/ **2/28** (土) 14:00開演(13:30開場)

ヤマハホール 〒104-0061 東京都中央区銀座7-9-14

2025/9/13(土) 前売開始 チケット料金(全席指定) **7,000円**

チケット取扱い チケットぴあ <https://pia.jp/t/> [Pコード:309-029] ヤマハ銀座店インフォメーションカウンター(ヤマハ銀座ビル1階)

主催/ヤマハ株式会社

※都合により、出演者、曲目が変更になる場合がございます。予めご了承ください。※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※チケット料金には消費税が含まれております。

お問合せ ヤマハ銀座店インフォメーション **03-3572-3171** (11:00~18:30/火曜定休・但し臨時休業有) ※お電話でのチケットのご予約は承っておりません。

徳永二男、堤剛、練木繁夫による 珠玉のピアノトリオ・コンサート Vol.11



徳永二男 Tsugio Tokunaga (バイオリン)

人気、実力ともに日本を代表する音楽家。

2024年4月から広島交響楽団ミュージック・アドバイザーを務める。1966年、当時日本楽壇史上最年少のコンサートマスターとして東京交響楽団に入団。68年、文化庁在外派遣研修生としてベルリンへ留学、ミシェル・シュヴァルベ氏に師事。76年、NHK交響楽団のコンサートマスターに就任。長年、ソロ・コンサートマスターの重責を担う。NHK交響楽団在籍時代より欧米から招かれる。とりわけケルンでの現代音楽祭、ベルリンの日独センター柿落とし公演でのサヴァリッシュ氏との室内楽コンサート、ニューヨークのカーネギーホールでの室内楽コンサートは絶賛を博した。94年にNHK交響楽団を退団し、ソロ、室内楽に専念。92年より鎌倉芸術館ソリストを主宰し、95年から2013年までJTアートホール室内楽シリーズの音楽監督を、96年からは宮崎国際音楽祭の総合プロデューサーを経て2011年から24年まで音楽監督を務める。宮崎県からは、長年の功績に対して、25年に県民栄誉賞が授与された。ソリストとして、モントリオール交響楽団やイギリス室内管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団など国内外のオーケストラからたびたび招かれている。16年には、楽壇生活50周年を迎え、文化庁長官表彰を受ける。20年に仲道郁代氏と行ったベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会は大きな注目を集めた。後進の指導にも取り組み、15年のティボール・ヴァルガ・シオン国際ヴァイオリンコンクールの審査員も務めた。近年は指揮者としても活動。多くのオーケストラやソリストから共演を望まれている。CDは、ブラームスのヴァイオリン・ソナタ全集、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全集や、パガニーニのカプリースなどリリース多数。桐朋学園大学特命教授。



堤剛 Tsuyoshi Tsutsumi (チェロ)

名実ともに日本を代表するチェリスト。桐朋学園子供のための音楽教室、同学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事。1961年インディアナ大学に留学し、ヤーン・シュ・シュタルケルに師事。63年ミュンヘン国際コンクールで第2位、続いてカザルス国際コンクールで第1位入賞を果たし、現在に至るまで世界各地から招かれ、オーケストラとの協演、リサイタルを行っている。

71年鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、73年『ウジェーヌ・イザイ・メダル』(ベルギー)、74年『芸術祭放送大賞』、80年『芸術祭優秀賞、レコードアカデミー賞』、87年『モビール音楽賞、N響有馬賞』、93年『日本藝術院賞』、98年『中島健蔵音楽賞』などに加え、2009年秋の紫綬褒章を受賞。また同年、天皇陛下御在位二十年記念式典にて御前演奏を行った。

13年、文化功労者に選出。14年インディアナ大学より『トーマス・ハート・ベントン ムーラルメダル』、16年『ウィーン市功労名譽金章』、『2016年度毎日芸術賞(音楽部門)』、18年『文化庁創立五十周年記念表彰』など多数受賞、表彰されている。

最近の録音では『肖像』が21年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞を受賞、23年には『R.シューマン:民謡風の5つの小品』をリリースした。20年秋にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団日本公演においてソリストを務め、大反響を呼んだ。24年11月には、クラシック音楽の器楽奏者として初めて文化勲章を受賞。カナダ・西オンタリオ大学准教授、アメリカ・イリノイ大学教授、インディアナ大学教授を経て、現在桐朋学園大学特命教授(元学長2004~13年)。霧島国際音楽祭音楽監督。公益財団法人サントリー芸術財団代表理事、サントリーホール館長、日本チェロ協会理事長、日本演奏連盟理事。日本芸術院会員。

2022-2023シーズンは80歳記念公演を行うなど、精力的に演奏活動を行っている。



練木繁夫 Shigeo Neriki (ピアノ)

1976年ツソンのバイエニアル・ピアノ・コンクールと79年ピッツバーグのスリー・リヴァーズ・ピアノ・コンクールで1位に輝いた。これまでにボストン交響楽団、シカゴ交響楽団、ピッツバーグ交響楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団などと共演。アメリカ国外でもメキシコ国立交響楽団、フランス放送管弦楽団、そしてNHK交響楽団を含む日本の主要なオーケストラと共演。また、76年より、チェロの巨匠ヤーン・シュ・シュタルケルとともに世界各地を公演した。2009年紀尾井ホールでの「デビュー30周年記念リサイタル」は、各方面から高い評価を得た。

室内楽奏者としてもヨーロッパ、アジア、北米のコンサートやフェスティバルに数多く出演。

93年第24回サントリー音楽賞を受賞。90年シュタルケルと収録したD.ポツパーの作品のCDが、グラミー賞のソリスト部門にノミネートされた。97年にはオール・シューマン・プログラムの「パピヨン」が、文化庁芸術祭賞作品賞を受賞。1981年~2015年までインディアナ州立大学で教鞭をとった。

これまでに、飯守美絵子、大島正泰、G.シェボクに師事。現在、桐朋学園大学特任教授、国立音楽大学招聘教授、相愛学園大学客員教授、エリザベト音楽大学非常勤講師、霧島国際音楽祭企画委員。

リサイタルのみならず、室内楽、オーケストラ共演と幅広く活躍中。



ヤマハホール

YAMAHA HALL

〒104-0061 東京都中央区銀座7-9-14

03-3572-3139(10:00~18:00/平日のみ)

<https://retailing.jp.yamaha.com/shop/ginza/hall>

- 東京メトロ銀座線/丸の内線/日比谷線
「銀座」駅A3出口より徒歩4分
- 都営地下鉄浅草線「新橋」駅「東銀座」駅より徒歩7分
- JR線「新橋」駅より徒歩7分

ヤマハホール公式 Facebookページ

<https://www.facebook.com/yamahahall>



「いいね!」ボタンの
クリックをお願いします。

